

曾於市 Soo CITY 話題の広場 Topics

音楽を楽しもう！



10月24日、末吉中学校体育館でメセナ楽団主催の「自由演奏会 in ぞお 2010」が開催されました。

この演奏会は、音楽と楽器が好きな方なら年齢、経験など関係なく参加できる全国各地で開催されているコンサートです。曾於市では7回目の開催となり、当日は市内小中学生や遠くは神奈川県・長崎県・福岡県から約80人が参加しました。

参加者は当日の朝初めて顔を合わせ、上野の森プラスのチューバ奏者の杉山淳先生の指導のもと、楽しく練習し本番に臨みました。

午後からの本番では、午前中の練習曲に加え、岩川小の参加者や末吉中吹奏楽部員のみ演奏も披露され、コンサートは大変盛り上がりしました。

手作りのまな板でたくさんの笑顔を



大隅南小学校創立50周年記念式典は、来年の2月20日（日）に予定されています。

10月16日（土）、大隅南小学校父級学級で創立50周年記念事業の一環として「まな板作り」を実施しました。

まな板作りには、児童と保護者、創立50周年記念事業実行委員会を含む45名で作製にあたり、材料となる木材は、学校の敷地内にあった「公孫樹」の木2本を使用しました。

当日は、昨年伐採していた木を裁断し、サンドペーパーでよく磨き、ラップ包装をするという内容でした。活動は、思っていたよりも手間や時間のかかる作業でしたが、地域の方々に配布する260枚と販売用の作製は無事、日が暮れる頃には終了しました。

まな板作りに参加した6年生の植村広喜君は、「まな板作りはとても疲れましたが、ぼくたちの作ったまな板が地域の人に使ってもらえるのかと思うと、感動しました。このまな板を使って、たくさんおいしい料理ができて、笑顔がうまれるといいな。」と話してくれました。

ボランティアで草払い



10月23日、大隅建設協同組合・県土改連・曾於地区測量設計業協議会・県職員・市職員・大隅南地域環境保全協議会の皆さん約120名が、ボランティアで大隅南地区調整池の草払いを行いました。

この施設は、地域の排水対策として平成20年度まで5年をかけて県営シラス対策事業で整備されたものです。

当日は、早朝から草刈機や重機で作業が行われると、約2時間後にはすっかりきれいになり、環境保全協議会会長の竹元さんから「毎年のご協力に感謝いたします。これからもみんなの財産として大切に管理していきます。」とお礼のことばがありました。

昔ながらの稲刈りが出来ました



10月22日、末吉小学校が高松にある学校田で、昔ながらの鎌を使っての稲刈り作業をしました。

これは、水土里サークル活動（高松地域活動隊）と総合的な学習の時間の一環として、5年生が取り組んでいる授業で、毎年行っているものです。

当日は、雨上がりの曇り空で子供達は足を滑らせる場面もありましたが、楽しそうな笑顔が印象的でした。

この作業に参加した下新地の今原ことみさんは「鎌を使う稲刈りは初めてで難しかったけど、馴れてくると"ざくっ"と切れる感触がとても気持ち良かったです。もっと上手になっておじいちゃんのお手伝い出来るように頑張りたいです」とやる気満々の笑顔で話してくれました。

ハイパオ君 高松田に登場



高松地域活動隊では、水土里サークル活動（農村環境向上活動）の一環として今年は、上海万博のキャラクターハイパオ君とワールドカップ開催に当りサッカーボールを描いてみました。

ちなみに黒い色は黒米稲で目の玉は白米稲と周りを赤米稲での取り合わせとなっております。

地域の皆さんには、写真でしかお見せできないのが残念ですが、上空からはご覧の絵を見ることが出来ました。

異常気象による温暖化が叫ばれる今日、農業取り分け水田や畑に植付けされる作物がどれだけ環境保護に役立っているかを皆が知って頂ける一助になればと思っています。

来年は、曾於市の市章を描いて見ようと思っておりますので、乞うご期待ください。

◀末吉高松田上空からの写真（9.22）

「茶いっぺ」で和やかな雰囲気 茶業青年部



茶業青年部では、昨年度より大隅町に住居をかまへ入籍した方で希望された新婚さんにお茶 200g・湯呑み・急須のセット一式を贈呈し地道な消費宣伝活動を実施しております。

10月9日、大隅町茶業青年部が岩川農業構造改善センターで岩川小学校PTA研修部の依頼を受け『おいしく飲もう曾於のお茶』と題したお茶の淹れ方研修会を開催しました。

当日は研修部会員及び校長・教頭先生を含め38名が参加し、茶業青年部牛原武治会長が「是非ペット茶と違う本物のお茶（急須で飲むお茶）のおいしさを家族で味わってほしい」と挨拶し研修に入りました。最初に基礎知識を学習した後実技に移りました。実技には、財部町で茶業を営み日本茶インストラクターの資格を持つ中山博さんを講師に招き、基本の煎茶の淹れ方の実演をしました。参加者は飲む人数によるお茶の量やお湯の温度を確認しながら真剣に取り組んでいました。お茶に合う和菓子も準備しており、まさに『茶いっぺ』テーブルを囲み和気あいあい、終始和やかな雰囲気の中会話が弾みお茶を飲んでいました。帰りには、お茶のプレゼントもあり参加者からは「帰ってもう一度親子で実演してみたい」などと好評のうちに研修会が終了しました。

自分の職場は、自分達で守る意識で



11月12日、消防組合訓練場（大隅町八合原昭南病院前）で、第7回屋内消火栓操法大会が開催されました。

この大会は、屋内消火栓の設備等を設置している事業所において、その設備等の迅速的確な操作により被害を軽減するとともに、併せて防火意識の高揚を図ることを目的として、平成16年度から開催されているものです。

当日は、曾於地区内から24チームが集まり、日頃の訓練の成果を発揮しようと、どのチームもきびきびとした行動で通報や消火作業を行っていました。

この大会に輪光無量寿園チームとして参加した渡邊剛わたなべこうさんは、「何回か練習していたけどこの場に立つと少し緊張しました。実際に火災等が起きたとき、焦らないように普段から訓練をし自分の職場は、自分達で守るという意識で勤務をしていきたい」とおっしゃっていました。

宝くじの助成金で生涯学習用和太鼓を整備



平成22年度コミュニティ助成事業により、末吉総合センターに生涯学習用和太鼓を購入しました。

この事業は、地区公民館や組織等が自主的に行うコミュニティ活動の促進を図り、地域の連帯感に基づく自治意識を盛り上げることを目指すもので、財団法人自治総合センターが、コミュニティ活動に直接必要な設備の整備を支援しています。この和太鼓は、今後、公民館等を利用した和太鼓教室や地域行事など地域コミュニティの活性化のために活用されます。



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

みんなリズムにノリノリ！！親子ふれ愛ファミリーコンサート



10月17日（日）末吉総合センター大研修室で「親子ふれ愛ファミリーコンサート」が開催されました。

曾於市地域子育て支援センターの企画により、豊國淳子先生の指揮のもとメセナ楽団のみなさんの心のこもった、心に響くすばらしい演奏をお腹の中の赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまで、たくさんの方々が堪能しました。子どもたちの知っている曲をはじめ、幅広い演奏や、楽器紹介など、楽しい時間を過ごしました。「アンパンマンマーチ」では、手作り楽器でリズムに合わせて身体を動かして、会場全体が一体になり、感動の輪が広がりました。

参加者からは「何もかも忘れて、本当に楽しい時を過ごせました。子育てもがんばれます。」という感想もいただきました。

うなぎの放流に悪戦苦闘 諏訪小学校



10月21日、末吉の村山橋でうなぎの放流体験が行われました。

この放流体験は、末吉町内水面漁業協同組合が放流を通して河川のことや魚のことについて理解を深めてもらうために毎年行っている事業。今年は諏訪小学校の1・2年生約30人を対象に実施されました。

はじめに河川や魚についての話があり、放流が始まると、ぬるぬるしてつかみにくいうなぎに子ども達は悪戦苦闘し、会場は大歓声に包まれました。

最後の児童代表あいさつで2年生の大迫華乃さんおおさかのんと川野海夏斗くんかわのかなとが「うなぎをさわったらぬるぬるして気持ち悪かったけど、よく見るとかわいい顔をしていました。とても楽しかったです」と話してくれました。

りんごの出前教室



11月9日、末吉の諏訪小学校と末吉小学校で、りんごの出前教室が行われました。

この事業は、青森県がりんごの生産量が日本一であることから、りんごを通して食育や消費拡大、農林水産業への理解を深めてもらうために広報活動の一環として行われているものです。

当日は、青森県りんご果樹課の方が講師となり、午前中に諏訪小学校の5・6年生と午後からは末吉小学校の5年生を対象にりんごの種類や栽培方法、青森県の事などを話されると、子ども達は真剣に話を聞く姿が見られました。

諏訪小学校5年生の平後千代美さんは「りんごにたくさんの種類があることがわかって勉強になりました。とても楽しかったです」と話し、子ども達はりんごを通して多くのことを学んでいました。

めぐみ会寄附



11月1日、末吉町深川にある社会福祉法人めぐみ会の皆さんが市長室を訪問し、財部地区豪雨災害や口蹄疫の被害に遭われた方に使ってくださいと寄附がありました。

この寄附は、10月16日に施設内で行われた秋祭りの会場でチャリティーイベントとして来場者の皆様に呼びかけたもので、お客さんの中には小銭のたくさん入ったペットボトルを抱えて来場された方もいらっしゃったそうです。

施設長の徳留晋一さんは「市民の皆さんにはかねてから施設に対してご理解とご支援を頂いています。こんな時だからこそ何かの恩返しをしたいという思いでこのチャリティーを企画しました。被害に遭われた方には少しでも早く元気を取り戻して欲しいと思います。」とおっしゃっていました。

茶標語入賞者表彰 茶PR看板



10月28日、財部支所2階応接室で財部茶PR用の看板に掲載される標語の入賞者表彰式がありました。

この標語募集は、景気の低迷や生活スタイルの変化によってペットボトルのお茶以外のリーフ茶の需要が落ち込んでいる事と財部茶の広報看板が老朽化している為、新たに広報看板を設置しリーフ茶の復活を図る事を目的に募集したものです。

この入賞作品は、財部地区の小中学生に募集をし197名、235点の応募の中から優秀賞6点、努力賞6点の計12点の作品がこの日表彰されました。

優秀賞に輝いた財部南中学校の中原聡子さんは「賞を貰えるとは思っていなかったのびっくりしています。広報看板を見て、たくさんの方がお茶を飲み健康に過ごしてくれればいいですね。お茶の事をもっと詳しく勉強したいです」とはっきりした口調で話してくれました。

「ゆずの収穫・加工体験」が行われました



10月31日と11月7日、曾於市観光特産開発センター主催の「ゆずの収穫・加工体験」が行われました。

この収穫・加工体験は、曾於市の特産品の一つである「ゆず」のことを、地元の子供達や保護者の方々に知って頂くことと、子供達への食農教育の一環として企画されました。

今回は、曾於市内の小学生と保護者の方など計49人が参加され、ゆずの収穫、ゆず搾汁工場の見学、「ゆずこしょう」「ゆず味噌」等の加工を体験しました。

最後に参加者全員で、加工した「ゆずふわふわ菓子」と「ゆずジュース」を美味しく頂き満足していました。

子供達は、ゆずの収穫から加工までの一連の流れを経験して、曾於市の特産品である「ゆず」のすばらしさを理解することが出来て良い経験になったようです。